

＜西船保育園父母会＞

【事業提案型・1年目】

孤独な育児に対するアプローチ『ひとりぼっちで悩むのはやめよう』

虐待防止に対するアプローチ『子育てを大いに楽しもう』

【支援金確定額：170,000円 支援率：46.34%】

取材日：平成24年（2012年）1月21日

■どのような活動をされていますか？

船橋市から虐待をなくするための一つのツールとして、子どもへの暴力防止を訴える「CAPプログラム」の普及が活動の主目的です。普及のために、当父母会主催で行う夏祭りや、市内で開催される「げんきっ子フェスタ」において、『CAPプログラムへの参加』、『虐待を発見したら』という2種類のリーフレットを配布しています。

11月には葛飾公民館で「CAPワークショップ講習会」を開催し、上記二つのイベントで「CAPプログラム」を知り、興味をもった方が参加しています。

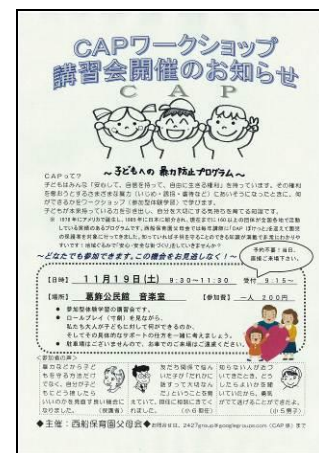


心理教育の専門家による講演会

■支援金をどのように活用されますか？

CAPワークショップ講習会を開催する際の講師料、会場使用料の補助に支援金を充てています。

また、当父母会主催の夏祭りや、市内で開催される「げんきっ子フェスタ」において配布するリーフレット、および「CAPプログラム」への参加を呼びかける際に、より宣伝効果を高めるためのポスター、のぼり、たすきを製作しています。



CAPワークショップ講習会を開催

■今後の活動の抱負を教えてください。

この企画を通して、子供を育てるということは、親を始め周りの大人のものの見方や考え方を豊かにしてくれるものである、ということに改めて気づくことができました。

安心・安全な町を作るために貴重な休みを削ることになったり、時に煩わしいことがあったとしても、十年後、二十年後が今より優しい町になれば、自分や子供たちにとってよいことが必ずあるはずなので、そのための種まきだと思い、これからも取り組んでいきたいと思えます。

～取材を終えて～

取材当日は、ちば心理教育研究所の光元和憲先生の講演である『「千と千尋の神隠し」を読み解く～千尋が湯婆婆から学んだこと～』を聞きました。主人公の千尋は10歳で、保育園の園児が10歳になった時の心理状態を解説するもので、未来を見据えた教育にも関心をもっていることがうかがえました。

「CAPプログラム」の普及や、このような子育てに関する講演会や座談会を開催することで、地域全体が虐待に敏感になり、「子どもを地域で見守ろう」という一体感が生まれると思えます。今後、市全域に広がるのが望まれ、西船保育園父母会の活動はそのモデルといってもいい先進的な活動だと感じました。

■関わり先（連絡担当者）：代表 林 恭子（はやし きょうこ）
E-mail : hayashi0811@yahoo.co.jp